

鈴木正一 [会派長]

広報広聴委員会委員・三芳水道企業団議会議長・総務委員会委員・下水道審議会委員・地域公共交通会議委員

食と空き校舎に活性化の取組み



新政クラブ会派は、6名の議員の新しい取組や継続を通して、市民の目線に立って考えながら活動し、今後も対外的に視線を広げて論議してまいります。

私は、第一次産業の高齢化が進み、担い手不足で、遊休農地が多くなってくると懸念しています。食を安定化させるには、新しい担い手の確保が必要と考えます。又、福祉の分野でも担い手が不足しています。様々な観点から課題は沢山あります。

館山市においては、令和7年度予算も厳しいですが、何を重点において、進めていくかが大切です。

館山中学校が4月から元三中跡地へ移転します。学校も統合されていきますので、空いた学校を有効に活用し、対外的に積極的にアピールしていく必要があると考えます。これ以上の人口減を防ぐためには、「素晴らしい自然」をもう一度見直して、積極的にアピールし、多くの人々に訪れて頂く工夫を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

倉田孝浩

広報広聴委員会委員・三芳水道企業団議会議員・総務委員会委員・民生委員推薦委員会委員・国民健康保険事業の運営に関する協議会委員

災害に備えつながら協定の輪

令和3年の4月に、館山市立第二中学校と第三中学校が統合となり、生徒数が一気に増えた館山中学校。統合してからの4年間、生徒らの登校を見守り続けてきましたが、令和7年3月7日に現校舎での最後の卒業式となりました。3月10日には旧第三中学校跡地に建設された新校舎の竣工式があり、14日の閉設式で歴史ある館山中学校校舎の幕を閉じました。寂しくなるとともに、生徒らの新校舎への通学の様子が気になる昨今です。

日本は地震や台風、大雨、大雪、洪水、土砂災害などの自然災害が発生しやすい国土なのは皆さんも承知の通りだと思います。そんな自然災害に対し、自助として個人での災害への備蓄も必要ですが、公助として自治体と企業・自治体間などで災害時に人的、物資の支援を確保し、災害からの復旧・復興を早めることも大切です。この目的での災害協定を市に確認してみると、数多くの企業や自治体との災害協定を締結していて、災害時の応急対応を迅速かつ効果的に行うための他自治体との相互応援協定や、物資供給に関する協定、医療救護活動に関する協定も締結していることがわかりました。災害発生時に、物的供給や非常設備などの迅速な支援を受けられるように事前の準備・計画がなされています。

また、北条海岸は館山湾花火大会やオープンウォータースイミングなどのイベントで盛り上がりを見せており、鏡ヶ浦、富士山、夕日と絶好のスポットです。ヤシの木ブランコ等を新たに設置し、更なるインスタ映えスポットにして欲しいと要望しています。



石井信重

議会運営委員会委員・監査委員・建設経済委員会委員・消防委員会委員・観光事業審議会委員・国民保護協議会委員

生活優先、まちの在り方、災害対策強化

2025年度の日本の景気は、緩やかな回復基調にあるとされているようですが、円安、原材料費の高騰、人件費の上昇等を背景に、食料、日用品を中心とした物価上昇、エネルギー価格の高騰など、私達の家計や暮らしに与える影響は大きく、その様な状況だからこそ、生活環境を整える取組を優先すべきであると考えています。市民の皆様から多く寄せられる要望として、日々の生活に直結する物価高への対応、市道の整備改良や洪水対策、「公共ライドシェア」の実証運行がスタートする移動手段の確保、団員不足が懸念される消防団活動など、安全安心な市民生活を維持するために不可欠な事業に対しては、市の厳しい財政運営の中においても予算の拡充が必要であると感じています。

その他にも小中学校再編計画の丁寧かつ着実な進捗、地区公民館を始めとする公共施設の今後の在り方の検討、海辺のまちづくりとしての船形漁港を中心とした「海業」への取組、観光事業における宿泊税の導入などは、特に注視して行きたいと思っています。

昨年5月に能登半島へ災害ボランティアに行ってきました。肌で感じた現地の状況から、政府による自治体と支援団体の迅速な連携に向けた災害ボランティア団体登録制度の創設や、同じ半島性を持つ地域として、交通インフラ整備の重要性をあらためて強く認識しました。今後も富津館山道路の早期4車線化など、災害対策の強化にも尽力して参りたいと思います。



鈴木ひとみ

議会運営委員会委員・文教民生委員会委員長・総合計画審議会委員・環境審議会委員・子ども子育て会議委員・館山市南房総市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員

「暮らしやすいまちづくり」のために



暖かく温暖な気候と東京から車で80分のアクセスの良さ、豊かな自然が残る館山市は、いくつかのテレビ番組で、「移住したいまち」と紹介されました。子育てしやすい環境、高齢者も暮らしやすい環境を整えて、ここで暮らす人が「暮らしやすい」と感じ、それを見た人が「ここで暮らしてみたい」と思えるまちづくりを進めたいと思います。

学校再編と新しいこども園の開園を機に、教育や子育て環境の質を上げ、ここで子育てをしたいと思える環境づくりに努めていきます。また、「こどもの居場所」へのニーズが高くなっています。実現に向けて取り組んでいきます。

「高齢になっても住み慣れたまちで暮らし続けたい」という思いの実現にも努力してきました。免許を返納しても、足腰が弱ってきても買い物に困らないよう移動販売の誘致、高齢者の買い物支援を進めてきました。医療機関の空白地域での医療受診のための仕組みづくりが今後の課題です。

「暮らしやすいまち」を実現するためには、市の経済力が必要です。市が財政難の現状では、思い切った施策を行えません。高齢化、人手不足を解消して経済を活性化するためには市内の産業の収益率を上げることがカギとなります。観光を市の主要産業とすると、観光業を支える1次産業、2次産業も潤います。観光資源である海の魅力を磨き、発信することをこれからも続けていきます。

望月昇

議会運営委員会副委員長・三芳水道企業団議会議員・建設経済委員会副委員長・消防委員会委員・スポーツ推進審議会委員・景観審議会委員・青少年問題協議会委員

失われた30年より今後の10年に向けて

日本のマスメディアは、日本の科学技術が優れているとか、治安が良いなど少ない日本の長所をクローズアップして、あたかも日本が世界をリードしている様な誇大表現で国民に伝え続けてきました。しかし、この美しい素晴らしい日本もだんだん後退してしまっています。

そのうえ、デフレは終わったかのように見せかけて、1989年4月に消費税を導入後3回の引き上げをしてしまいました。

これはほとんどない間違いで、消費税を引き上げることに私たちの実質所得（可処分所得）は減ってきました。コロナ終焉後の今は、経済を生きづけるためにも減税を視野に入れるべき時だと思います。

また、このままの円安では、日本の素晴らしい品物も土地も外国人の手の内に落ちてしまいます。政府は日銀の金利を通常適正な金利にして円安を止め、日本人が日本で生活しやすい環境を作っていくべきではありません。

館山市は台湾に「トップセールス」をするより、国内各地に「トップセールス」をしてせつかく軌道に乗ってきた「ふるさと納税」を強く、もっと日本人に愛される館山を作っていくべきではないかと考えます。

そのためにも私は館山をもっと「稼ぐ」魅力的な自治体、商業会、農漁業、観光や工業を作り上げたいと思います。

そして国際情勢不安定の中、国防のために働く海上自衛隊とも協力して、国家国民のため、館山市の防衛インフラを他産業とともに強化していきたいのです。足りないところは国、県から引っ張ってくれば良い。生活を支える基盤整備のため仕事をする。とにかく私は、館山市民のための政治をしていきます。

早くも戦後80年、昭和100年の記念の年。先人たちの足跡を一度振り返ってみて、豊かな強い日本の10年先を夢見で努力していこうではありませんか。

本澤栄里子

広報広聴委員会委員・文教民生委員会委員・都市計画審議会委員・交通対策審議会委員

子育て支援・防災対策の充実に向けて

日頃より皆様からのご意見やご要望を受け止めながら、子育て支援と防災対策の充実に向け力を注いでまいりました。子育て支援では、保育園環境の充実に努め、また安心して出産育児ができるよう、妊娠中や産後の母親を支える相談窓口の整備に加え、館山市の育児休業中の園児の継続利用期間を、国の定める育児休業原則1年とし、保護者が育児休業期間中でも引き続き保育園を利用できるよう、制度の見直しを議会で要望しました。



防災対策では、非常時に温かく栄養のある食事が取れる「ポリ袋を利用した調理方法」の普及を推進しました。

身近な材料を使い安全に調理できるこの方法を、学校行事や地域の公民館で実演し、多くの方に関心を持っていただきました。

また、家庭での備蓄意識向上にも努めました。

今後も市民の皆様とともに知恵を出し合い、未来を見据えた政策を実現してまいります。誰もが安心して暮らし、誇りを持って街づくりに全力を尽くします。

令和6年度 会派活動記録

令和6年10月7日 森市長へ要望書提出

(令和7年度予算及び市政運営にかかわる要望書) 内容はこちら→



令和6年11月6日～8日

秋田、青森行政視察報告書 報告書はこちら→



人との出会いと対話を大切に **新政クラブ** 所属議員の活動をお届けします。